

たのしい たのしい 船穂校♪

倉敷市立船穂小学校

横山文朗

給食の豚肉

わたしが小学生の時、給食で使われていた肉は、鯨肉と鶏肉と豚肉でした。鯨は固く鶏はしわく豚は脂身ばかりでした。

同級生の貴子さんは、豚肉がどうしても食べられず、昼休みが終わっても掃除時間になっても食べていました。涙と鼻水でぐちゃぐちゃになりながら、それでもがまんして豚肉を口に運びます。のみきれなくて吐き出すものだから食器の中は涙と鼻水と唾液で大変なことになります。わたしは見ていて気持ち悪くなり、先生の目を盗んで何度も裏山にすてました。

男子10名、女子10名の学年で、総社の街中にある250名の中学校に進学したわたしたちは、少数派で田舎者とからかわれました。そのこともあって仲間意識が強く、3年ごとに同窓会を開いてきました。貴子さんが同窓会の席で、「文ちゃんはやさしい。わたしが給食を食べられなかったときにいつも山にすててくれた。今も覚えている。」と話してくれました。「よう覚えとらんよ。」とあいまいな返事をしたけれど、本当は見るのが気持ち悪くてすてたのに、貴子さんはよほどつらい思いをしていたんだなあと思いました。

そこまでして食べさせなくてもよからうにという気持ちもあって、わたしは先生になって偏食がある子に無理強いをしませんでした。給食は残さず平等につき分けさせます。グループで机をあわせて食べますから、食べられない人はグループ内で取ってもらいなさい。ただ、全く食べないのは許しません。一口でも食べる努力をしましょうという給食指導をしていました。

家庭訪問で女の子のお母さんから「先生、うちの子、先生の学級になったこととっても喜んでいるんです。」そうか！そうか！と喜んでいるとお母さんは「先生、給食を平等につきわけるでしょう。去年まではおかわりがあつたけれど、恥ずかしくておかわりなんかでできなかった。今年はたくさん給食が食べられると喜んでいるんです。」と続けました。なんだそんなことを喜んでいるのかとがっかりもしたけれど、配膳の仕方だけでそんなふうに感じている子もいるのかと思いました。

いつでも、どこでも、何でも食べられる時代になって久しいです。食べるということは、人が生きていく上で何より大切なことですから、食を軽んじることは、生きることを軽視することにつながります。子どもたちの3食のうちの1食を給食が担っているのですから、献立を考え調理をしてくださっている給食調理場の先生だけでなく、職員の皆がそれぞれの立場で食の大切さを子どもたちに伝えていきたいと思っています。

※ 貴子さんは仮の名前です。

